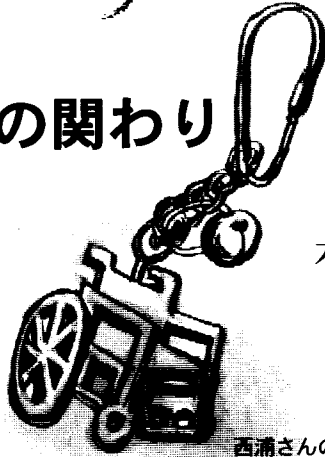


# サロンのあべの

VOL.179

## 地域との関わり



西浦さんの作品から

### 木彫り職人とボランティア活動

△サロン・あべの△4月の出会い

平成13年4月21日(土)△サロン・あべの△4月の出会いは、木彫り職人であり、地域のボランティア活動にも取り組んでおられる西浦清輝氏にお話を伺いました。

#### ボランティアをする動機

私は「ボランティア」とか「障害者」という言葉は好きではありませんが、便宜上ここでは使います。

地域の交流会に参加した時、自分に何かできることはないかと考えている方は多いと思います。それは、ボランティア活動をすることによって自分自身の思いを確立したいと考えていることでもあると思います。

このことは、外に向かって働きかけることであり、趣味など

を持つことと似ています。言い換えればボランティアをするという事は、自分自身の日常生活

においての精神的安定を求めてやっていることでもあります。つまり、自分のためにやっている事なのです。

#### 相手との関わり

ボランティア活動を通じて感じたことは、相手から感謝の言葉を聞き出そうとしたり、人の評価を期待してはいけないことです。そうすることによって必ず、自分自身が傷つきます。なぜなら、他人の気持ちなど絶対に判らないからです。表面上良いことを言っても、本当の事など判りません。

障害者の人たちは、身体的に少し個性的であるため、一人ですら動くのに少し困ることがあったり、精神的に少し困っておられ

たり、ゆっくりしておられたりしているだけで、みな普通の人たちなのです。障害者の人たちやお年寄りをかわいそうな人とか、不運な人とか、弱い人と思うのは、ボランティアの勝手な見方であって、不幸とか思うのは、その人の考えによるもので、障害者やお年寄り、健常者に関係のないことなのです。また、ボランティア活動を続けていると、お互い人間同士だから少し気まずい思いをすることがあったり、しんどい事もあります。それは、障害者やお年寄りだから気まずい思いをするのではなく、相手が健常者であつても同じような事があると思いません。

障害者やお年寄りは、ボランティアに対してすごく気を遣っておられます。彼らは今まで嫌な思いをされてきました。ボランティア活動をされようとする

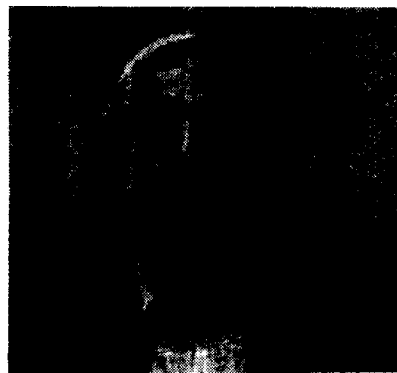
方は、プライバシーという面に配慮しながらもつとつと接触を持ち、相手を知ること、より身近に感じ、しばらく見つめてほしいと思います。そうすることによって、どういう事が手伝えるのかが見えてくるはずで、す。障害者やお年寄りは、一人ひとり状態が違うのでその人に合った介助をすることが大切です。

今後のボランティア

中に 仲介者が入るとどうしても、やらされているという観念があるので、介助される方とする方の当事者同士で介助の方法など共に話し合い、趣味など共通するものを通じて、ボランティア活動を進めるという方法も必要だと思えます。

嫌な思いを残したままでボランティア活動を離れると自分自

身が損です。どうしても見返りをと言う人は、有償にすればよいと思います。お互いあまり気を使わずより良い関係でいられると思います。せっかくの出会いです。これを大切にして、ボ



西浦清輝さん

ランティアをしていて良かったと思えるようになりたいものです。

私は障害者やお年寄りを介助してきたと言うより、私の方が介助されてきたように思いますし、介助の方法も彼らから教わ

りました。いろいろなところに連れて行ってもらい、いろいろな人との出会いも作ってもらいました。

●●●●●●●●●●

これからは自分の仕事を活かして、木彫りのカスタネットやジグソーパズルなどを作って、作業所などで使ってもらえれば、と思いをふくらませているそうです。

この日、西浦氏の、紫檀や花梨で作った亀やサイなど動物の置物や香盒の木彫り、それに仏像や能面など、幅広いジャンルの作品を見せていただきました。木のぬくもりを感じるすばらしい作品の数々に、参加者からはため息がもれた4月の出会いでした。なお、この日参加のみなさんに、西浦氏から木彫りのついたキーチェーンのプレゼントがありました。

参加者16名(山村貴司)

## 自立生活理念を考える —自己決定と介助—

■12■

黒田 隆之

前回、アテンド方式においても、介助者が不足している状況では、障害者が介助サービスの内容や質をコントロールすることは難しく、すなわち自己決定も尊重されにくくなるということを説明した。さらには、金銭的に裕福な障害者ほど質の高い介助者を雇用することが可能で、公的な介助費用しか持たない障害者は相対的に質の低い介助者しか雇用できない状況が起こりうるということを述べた。

これらの問題が発生する理由は、アテンド方式が、障害者の選択性や自己決定を確保するために、消費者としての権利を

用いていることにあると考えられる。本来、障害者の選択権や自己決定が尊重される介助サービスは、それ自体が権利として保障されるべき性質のものであろう。消費者の権利というのは、市場メカニズムにおける売手と買手の関係の中に存在する権利である。アテンド方式は、介助サービスを商品として捉え、その商品に関する消費者の権利というかたちで選択権や自己決定を確保しようとしているが、当然それと引き換えに金銭が必要になる。

自己決定権を消費者の権利とオーバーラップさせることにより、障害者が保護され管理される役割から脱する大きな一歩を踏み出したという点で、アテンド方式は大きな評価を得ている。しかし、これまでに説明した問題は大きな課題として残されているし、介助を必要としている障害者自身もそれを実感していることであろう。介助サービスが商品として扱われるべきではないと考えているわけではない。アテンド方式による制度を利用し、自分で介助者を雇用して、選択性や自己決定を確保することが可能な人にとっては、アテンド方式は間違いなく有効な方法であろう。自己決定が尊重される介助サービスを利用することを、すべての人がもつ権利としてとらえるならば、やはり介助費用ではなく介助サービス自体が公的に保障される必要があるだろう。権利として公的に介助サービスが保障される制度を前提とし、障害者が選択的に利用できるものとしてアテンド方式による制度が実施されるのであればアテンド方式の問題点は解決されることになるであろうし、介助を必要とする障害者も介助者不足という不安から脱することができるだろう。

簡単に言ってしまうえば、アテンド方式は、ある条件の下でその仕組み自体がうまく動けば、障害者の自己決定が尊重されやすい介助関係が自動的に作り出されるという錯覚を持っているのではないだろうか。もちろん、障害者が中心となって運営している自立生活センターの取り組み等により、これまでに述べたアテンド方式の問題点は軽減されている面もある。しかし、障害者と介助者が対等につきあえる介助関係を構築するのは、人である介助者と障害者

であるということを見ると、介助者に対する教育こそこれからの重要な課題となるのではないだろうか。

主体的に生活を作り上げようとしている障害者を支援するということは容易なことではない。自分の意思を明確に示すことが困難な人であればなおさらである。ただ、自立を支援する介助者の役割についての共通基盤と呼べるようなまとまった体系が存在するわけではなく、多くの障害当事者や支援者の試行錯誤の取り組みの中、直面する課題に対する行動が先に展開している状況にある。自立生活を実現し、主体的な生活を送っている障害者の取り組みや生活の実態から、自立生活に求められる介助者の役割についての研究を推し進めていくことを今後の課題として示しておきたい。

この連載は、今回で終わりです。一年間ありがとうございました。

「あふん」の品揃えを  
「あふん」の品揃えを  
「あふん」の品揃えを

### 「学力低下」に思う

最近、子供たちのことが何かと問題になっている。そんな中でも児童、生徒の学力低下が盛んに論議されている。文部科学省の教科書検定でも内容の薄い教科書が、低下を加速するとの批判もきかれる。例えば明治の文豪、夏目漱石や森鷗外がこれまでの教科書から消え、代わってマンがや歌謡曲などが新しい教科書に取り入れられるという。これでは学力が低下するのにも無理ないし、内容の薄い教科書といわれても仕方がない。

先日、テレビを見ているとリポーターが女子校生に熟語の意味や読み方を聞いていた。

「二階から目薬」のことを「二階からボタモチ」と言ったり、「馬子にも衣装」のことを「孫にも衣装」と書いていた。そして「一期一会」は何と読むかと

## 晴れのち晴れ

③2

稲垣 恵雄

聞くと「いつきいつかい」と言い、その意味は「一学期に一回宴会しようぜ」とケロッとした顔で答えていたのである。

「一期一会」とは申すまでもなく「いちごいちえ」と読み、茶道の世界から出たことばで「生涯でただ一度まみえること。一生に一度限りであること」と奥深い意味がこめられている。それだけにこの「一期一会」ということばを大切にしている人も多いと思う。

先程の女子高生の答えを聞いて私は情けないのを通り越して腹をかかえて笑ってしまった。いや笑ってばかりもおれない。少しでも学力の低下を止める必要がある。そのポイントは教科書検定の指針となる学習指導要領作りを見かけだけでなく中身の濃いものにしてもらいたいものだ。

## ★五月の連休の過「し」かた

歴史の教科書の内容をめぐって議論が続いているが、歴史に限らず、過去の記述には難しい問題が含まれているものだ。たとえば私個人の昨日の一日という短い期間でさえ文章で記述することは難しい。朝起きてコップの水を飲むというところから細かいことを数えあげれば、昨日一日だけでも数え切れない出来事があったはずだからだ。

一方で、たぶん私たちの多くが経験していることだろうが、昨日何をしたかと聞かれて、何も思い出せないこともある。この場合、朝起きて水を飲むとか、朝刊を読むなどという毎日やっていることは思い出す必要がないので忘れていているのである。

逆にいえば、昨日何をしたかと聞かれたら、そういった無数にある日常的な出来事から、昨日という日を特別に印象深くする何かを探して答えるのである。その探し方は、一見すると私たちの自由な

考え方に任されているようであるが、実際には私たちの文化によって決められている部分が多い。

たとえばこの五月の連休に何をしたかと聞かれたら、行楽地などどこかに出かけたかどうかを暗に意味することが多い。だから出掛けた人は、どこに出掛けたと、行った先の場所を答える。出掛けなかった人は「家にいましたよ」と答える。これは出掛けなかったという意味であり、それ以上の意味はない場合が大半だろう。五月の連休をめぐる、ひとつの文化が質問の答え方を決めてしまっているのである。

では、五月十五日に何をしていたかと聞かれたらどうだろう。聞かれた側は質問の意図がわからない。つまり連休をめぐる質問にはあつたような暗黙の了解、つまり、これはどこに出掛けたかという意味だという理解がない。五月十五日は特別な日ではないから、五月の連休にと



もなつていたような文化がない。たぶん人からそういう質問を受ければ、なぜそんなことを聞くのだろうと不思議に思うだけだろう。

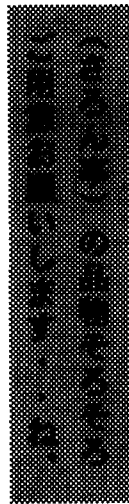
つまり昨日何をしていたかという質問は、質問の裏に共通の文化がないと答えようがない。たとえば「呼吸をしました」という答えは事実には違いないが、冗談にこそなれ、質問した人を満足させることにはならないだろう。その問答は質問の背景にあるものを無視しているように思われるからである。

興味深いことは、このような文化は、実は人々の行動にも大きな影響を及ぼすということだ。つまり連休をどうすごしたかという質問は、どこに出掛けたかという意味を含むだけではなく、どこかに出掛けなければ意味がないという考え方をどこかに隠しているのだろう。

誰かに聞かれて答えられるために出掛けるのではなく、自分自身に連休に何をしたのかと問いかけたときに虚しくならないように出掛けるのである。連休をめ

ぐる文化にとつぷりと浸(つ)かり、息もつけないほどに考え方の自由を失ってはいないだろうか。

人と人との間に共通の文化がなければ、昨日何をしたのかという簡単な質問にも答えられない。その意味で文化の大切さを認めないわけではないが、文化に縛られ、その流れに逆らえば虚しさしか残らないとすれば問題だ。文化は人に与えられるものであるが、同時に人が創り出すものでもあるからだ。(知)



## 感謝

カンパ、キーホルダー、お茶菓子等のご奇贈、またサロングッズのお買い上げを、ありがとうございます

石原 栄(大阪義肢装具センター)  
 風 智恵子、小西千代子、竹村定子、  
 露木昌代、西浦清輝、東谷和代、  
 森田真千子、山本篤江、その他の方々、

## 朗読テープのご案内

朗読グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙一七八号の録音テープ(六〇分)が出来ました。

### 朗読テープ文庫

- I (サロン・あべの)紙は、第一号より一七八号までそろっています。(五〇号は九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は一三〇分テープ二本)
- II (サロン・あべの)十周年記念誌「はーとが、はろー!」(九〇分テープ二本+一二〇分テープに収録)
- III 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- IV 「ラジオたんば」放送(サロン・あべの)平成七年五月の出会い」放送分(三〇分)
- V エッセイ集「逃げた「ヨナ」」ポランティヤ活動の周辺(岡本栄一著)糸でんわ音訳
- VI 「キミたちだけが困るんだ」身障者だけで旅した十余年(山田誠1995・2・22著)糸でんわ音訳
- VII 「金子みすずへの旅」(島田陽子著・九〇分テープ二本)糸でんわ音訳
- VIII 「タヤけ空のオニヤンマ」(牧口一二著・九〇分テープ四本)糸でんわ音訳
- IX 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著・九〇分テープ五本)糸でんわ音訳
- X 「セルフヘルプグループ」(岡知史著・九〇分テープ二本+二〇分テープ)糸でんわ音訳
- XI 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修)大阪市立天王寺図書館制作
- XII 「知らされない愛について」(岡知史著・九〇分テープ二本)ほけつと音訳
- XIII 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著・九〇分テープ三本)糸でんわ音訳

いずれもご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田までお申し出ください。  
 (☎〇六・六六九一・一〇二八)

# 植物あれこれ 第二十八回

山口康二郎

みどり(2)

若苗色、鶯色、青磁色、五月

北海道ではソメイヨシノの開花日が四月二十八日だと報道されているのを聞いて、すっかり葉桜になった大阪との季節感の違い



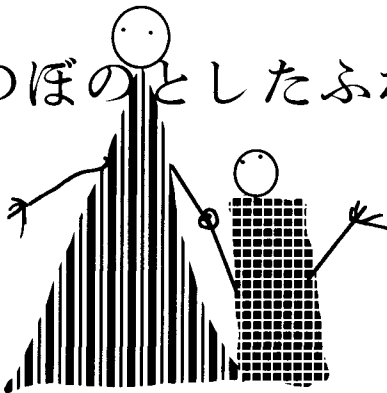
を考えさせられていた折り、長野県の軽井沢の夜景をテレビで見て、また季節の違いを感じました。軽井沢ではまだほとんど木の芽吹きはなく、柳の淡い穂が目立っているのです。夜景でしたのでそれは白に近い色に写っていました。

古人が早春を「白緑」と言った意味が実感として分かりました。

四月末、交通事故で障害を負われた方と一緒に、奈良のあやめ池の病院に行きました。診察を待っている時間を利用して、四〇数年前アルバイトをしていた遊園地の周りを歩いてみました。生駒を越えたただで、こんなにも緑が映えるのかと驚くくらい、あちこちに緑が照り輝いていました。整然と並んだ植林の一角の色ではなく、雑木林の色とみどりの緑には何とも言えない風趣がありました。

昔の人はこの微妙な色の違いを愛で、それぞれに名前をつけたのです。若苗色、鶯

ほのぼのとしたふれあい、いかがです。



これは便利。

## 一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力ください。

の羽色、鶯色、抹茶色、青磁色、松葉色、  
青竹色、錆浅黄色、鉄色、苔色、常盤色、  
などなど。

しかも成長するに従ってその色もどんどん  
変化する楽しみがあります。もみじなど  
は、その典型といつてよいでしょう。

「徒然草」にも「卯月ばかりの若楓、す  
べてよろずの花、紅葉にもまさりてめでた  
きものなり」とうたっています。

緑の季節は日本人のみならず、人類すべ  
てに生きる糧を与えてくれると感じるのは  
共通のようです。

かのゲーテは「五月の歌」でつぎのよう  
にうたっています。

ほとばしる よろこび この歓喜

おお地よ 太陽よ 幸福よ 希望よ

萌ゆるさみどり 花咲く樹々

五月はうつくし・・・

(手塚富雄訳)

それぞれの木々が共生しながら、固有の  
色を誇っているような生命の色。緑に囲ま  
れて、せめて心はいつまでも瑞々しくあり  
たいものだと思う昨今です。

## さきみみずきん

### 朗読テープ

「サロン・あべの」紙は、発  
行当初より朗読ボランティアの  
ご協力を得て朗読テープ作りを  
しています。それを希望される  
方には、毎月発送しています。

朗読テープを作ってくださいさるボ  
ランティアの皆様は、グループ  
であったり、お一人だけの時が  
あったりしましたが、その引き  
継ぎはいつもスムーズに進み途  
切れることなく今日まで続けて  
こられました。本当にありがた  
いことと感謝しています。この  
四月からは、「糸でんわ」グルー  
プが朗読テープ作りとその発送  
を担当してくださることになり  
ました。「糸でんわ」さんは、  
これまでも、「さろん文庫」の  
単行本などをテープ化していた

だいており、「朗読テープ案内」  
欄でもおなじみのグループです。  
「さろん文庫」の朗読テープは、  
視覚障害の方だけのものではな  
く、入院されている人や家で仕  
事をしている人も聞いてくださ  
っています。「朗読テープは、  
真心を込めて作られているのだ  
から、聴く方も姿勢を正して聴  
いています」と言ってくださいさる  
方もおられますが、私はながら  
族ですので、申し訳ないと思ひ  
ながらもあれこれと手を動かし  
ながら聴いています。しかし、  
読み込まれ音訳されたテープに  
は、本の内容だけではない魅力  
的な迫力があり、知らない間に  
聴き入っています。皆さんも、  
一度聴いてみてください。

(け)



# 美智子のこんな話

岸田美智子

サア！あなたも  
『まいど』アタッククラブで  
トライしてみませんか？

『まいど』アタッククラブとは、誰でも参加できるスポーツとか、チョット工夫しただけで味わうことの出来るグルメ気分とかを、体の動ける範囲で、最大限に活用して、楽しもうというクラブです。このクラブは、施設の方や、在宅の障害者の方を対象にしています。

サア！あなたも新しいスポーツにアタ

<p>●第一回目 七月 八日(日) 12時～16時 ☆参加受付期間 五月十五日～ 六月十五日</p>	<p>ポッチャをしよう！ (ポッチャは重度障害者が考え出した障害者のためのスポーツ) 場所〓長居障害者スポーツセンター・会費〓無料・定員〓十～十二名 集合12時〓スポーツセンター・玄関ロビー・集合 各自弁当持参、食事をしながら自己紹介 13時～15時〓ポッチャに参加してみよう 15時～16時〓二階ロビーで交流会</p>
<p>●第二回目 九月十六日(日) 13時～16時 ☆参加受付期間 七月十五日～ 八月十五日</p>	<p>秋の名月風おはぎを作ってみよう！ (ついでに美味しいお茶の入れ方あれこれ) 場所〓『まいど』事務所・材料費〓四〇〇円・定員〓五～六名 集合13時〓『まいど』事務所で自己紹介 13時半～15時〓実際に作ってみよう 15時～16時〓クイズ・占い(〇〇ちゃんのxx占い)で楽しもう</p>
<p>●第三回目 (二〇〇二年) 三月十六日(土) 12時～16時 ☆参加受付期間 (二〇〇二年) 十二月 一日～ 十二月二〇日</p>	<p>あなたはもうラーメン達人気分！？ (ラーメンを自分で作ってみよう) 場所〓日清ラーメン博物館(池田市)・体験費〓二〇〇円+交通費 ・定員〓五～六名 集合12時〓梅田(参加希望の方には地図を別送します) 自己紹介後、阪急電車で移動 13時半～15時〓ラーメン作りを体験してみよう 15時～16時〓梅田解散</p>

\* 介助者が必要な場合は、各自確保をお願いします。(雨天決行)

ツク！ 自分流のモノ作りにアタック！  
新しい仲間作りにアタック！ アタック！  
『まいど』があなたのチャレンジ精神を応援します。

『まいど』アタッククラブでの各イベントの申し込みは、ハガキまたはFAXに、住所・氏名・電話番号・介助者の有無をご記入の上、送ってください。

○連絡先

自立生活センター・

MYIDDO(まいど)担当 下村・益満

おしらせ

△サロン・あべのV6月の出会い

日時 6月16日(土) 午後1時~4時  
場所 育徳コミュニティセンター2階  
(スロープ・車いすトイレあり)

〔阿倍野区阪南町5-15-28〕

内容 素敵な出逢い、

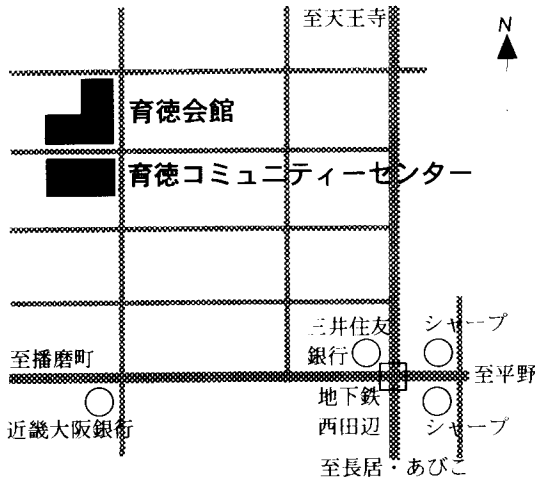
みかん(天のまを)を聴導犬に

パネラー 岸本 宗也 氏

会費 無し

お問い合わせ先

TEL 06-6691-1028 (富田)



「あべの」の品物をそろそろ  
ご利用お願ひします。

〒五五八-〇〇〇二  
大阪市住吉区長居西一-九-十二  
キミハウス一階  
TEL 〇六-六六〇九-三三三三  
FAX 〇六-六六〇九-三三二〇  
E-mail  
cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

電話は早い、  
ファックスも  
Eメールもある  
けど、  
こころ伝わる  
サロンの絵はがき  
がいい。



サロンの絵はがき

五枚一組 一八〇円



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」6月の社会い

日 時:6月17日(日) 午後1時30分~4時

場 所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-1-3

内 容:みんなで 一緒に シング・ア・ソング  
~心に残る歌をギターで調へに乗せて~

パネラー:岡田健・川原里美・津田悦子氏

会 費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:kubota53@mbokinnet-osaka.or.jp

■「サロン・ひらの」6月の社会い

日 時:6月23日(土) 午後1時30分~4時

場 所:にこにこセンター3階

大阪市平野区平野2-1-30

内 容:未定

会 費:100円

申し込みと問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎06-6795-2200

■「サロン・にし」6月の社会い

日 時:6月9日(土) 午後1時30分~4時

場 所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西淀川区城江4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内 容:紙芝居・パネルシアター・語り部・絵本や楽しいゲームで楽しもう!

~お楽しみの後はティータイムで楽しい交流会~

ゲスト:「銀の鈴」の方々

会 費:なし

問い合わせ先:高協 ☎06-6537-0241

■「サロン『アイ』6月の社会い

日 時:6月9日(土) 午後1時30分~午後4時

場 所:生野住宅サービスセンター

「おかちやま」2階ビューロー室

大阪市生野区勝山北3-13-20

内 容:視覚障害者を主体とした

重複障害者のリハビリについて

パネラー:米田雅彦(よねだまさひこ)氏

(日本ライトハウス職員)

会 費:なし

問い合わせ先:生野区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101

■《てくてく・すみよし》6月の社会い

日 時:6月16日(土) 午後1時~3時

場 所:大阪市東長区長居スポーツセンター2階会議室

大阪市東長区長居公園1-32

内 容:デイズニールランド旅行再交歓会

会 費:300円

申し込みと問い合わせ先:山本篤江 ☎06-6692-8411

■「サロンいたみ」6月の社会い

日 時:6月23日(土) 午後2時~

場 所:伸幸苑(伊丹市寺本6-150)

内 容:人形劇(劇団とことこ)

会 費:なし

問い合わせ先:砂輪 ☎0727-84-0057(午後7時以降)

■「サロンつるみ」6月の社会い

日 時:6月3日(日) 午後1時30分~4時

場 所:鶴見会館

大阪市鶴見区横堤5-5-51

内 容:みんな輪になって歌おう踊ろう音楽って楽しいな

パネラー:栗石福氏(音楽療法士)

会 費:なし

問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田井 ☎06-6913-7070

# ●好評のエッセイ!

岡知史著

□ 知らされない愛について

□ ほんの少しの神に近い部分

◎ どちらとも・700円

## From EDITOR

編集後記

今年も「さろん亭」の品物の準備をお願いする時期になりました。最近には他にもバザーをすることが増え、提供される品物が分散するのは仕方ないことと思います。みなさんには、あちこち心づもりの先はおありでしょうが、そこは何とか「サロン・あべの」を最優先にさせていただいて、「さろん亭」の品物そろそろご用意お願いします・・・ね (i)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.179 [H.13. 5.19.発行] 定価¥100.  
代 表；山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071  
連絡先；畠田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028  
表 題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子  
郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941  
印 刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDE#2F TEL06-6719-8212